



氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町 4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8221 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkyu@city.himi.lg.jpホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000000500/hpg000000416.htm>

毎日の授業の質を高めるための研修を

氷見市立宮田小学校

校長 中谷内 恭子

今後 10 年間ぐらいで大量の教員が退職することが見込まれ、若い教員をいかに育てていくかが喫緊の課題となっています。そこで、教員を育てる授業や研修のことについて述べてみたいと思います。

今までに、県や市の小教研の指定校にも勤務し、たくさんの授業をさせていただいたり、素晴らしい授業を見たりする機会がありました。その時、ふと思ったのは、あまりにも用意周到で、指導案の作成や本時までの準備に時間をかけすぎたりしていないか、その授業が参観した先生方の、その後の授業改善に活かされるのだろうかということでした。研究授業となると、授業をする先生がよいところを見せたいと思うのは当然だし、時間をかけて教材研究や指導案の作成・準備もします。そして、素晴らしい授業に刺激を受け、それを目指して切磋琢磨するのも大切でしょう。しかし、若い先生方が、それを明日からの授業に活かしたいと考えても、何をどう取り入れていけばよいのか分からないというのが、本音ではないかと思います。

研究授業をフランス料理のフルコースに例えるなら、日々の授業は、毎日食べる日本食といえるかもしれません。いくらおいしくても、毎日フランス料理ばかり食べるわけにはいきません。毎日食べる日本食が子どもたちの身体をつくるため、食育の大切さが叫ばれているのと同様に、日々の 1 時間 1 時間の授業の質をいかに高めるかということ研修することが大切なのです。そして、授業者に、本時ばかりではなく、むしろそこへ至るまでの、すばらしく育てた子どもたちへの指導方

法や過程、学級経営などで力を入れたり工夫したりした点についても、具体的に話してほしいと思います。それこそが、若い教員の知りたいことであり、授業の質を高めるための最高の研修となるのではないのでしょうか。

また、どの先生方にも、得意分野やよい指導をしておられることが必ずあると思います。作文の指導、ハードル走や器楽合奏の指導、ノートの書かせ方、ほめ方やしかり方など、それらを伝え合い、共有の財産にしてほしいのです。校内研修の機会でなくても、気軽に短時間の互見授業を数多く重ね、そのよさや指導技術を伝え合ってほしいと思います。氷見市教育総合センターが毎年実施している「仲間に学ぶ」研修会が好評を得ていますが、学校内の身近にいらっしゃるよき仲間をどしどし活かし学ぶ校内体制づくりも大切だと思います。

これまでの 38 年間の教員生活を振り返ってみますと、新採は大山町の上滝小学校で、ちょうど大山国体があった年だったと記憶しています。その後、主に高岡市と氷見市で勤務し、全校児童 12 名という複式学級の小さな学校から、1 学年 4 学級の大規模校まで、様々な学校を経験させていただきました。教頭として 5 年間、校長として 10 年間も働かせていただき、いろいろな方々に支えられ、たくさんの先生方や子どもたちとの素晴らしい出会いがあり、本当に幸せだったと思います。また、今まで教員を続けて来られたのは、何よりも家族の理解と協力があつたお陰だと、つくづく感謝している今日この頃です。

～研究推進事業報告～

ふるさと教育推進委員会

「わたしたちの氷見市」の改訂

宮田小学校 教頭 加藤 利彦

現在の氷見市民憲章の前文には「わたしたちは、海をへだてた立山の雄々しい姿にあこがれて、希望に生きる氷見市民です」とあります。子どもたちが希望をもつということは生きるということの大前提です。社会科の観点から付け加えるとすれば、自分の言葉で「ふるさとを語る」ことができるということが大切ではないかと思えます。そのためには、ふるさとの自然、社会、歴史、人々など様々な事象を知り、それを踏まえて考えるということが必要となります。これが、ひいてはふるさとを愛する子どもにつながるのだと思います。そうした子どもを育てるための小さな一里塚として、ふるさと教育資料「わたしたちの氷見市」があり、今回の改訂がありました。

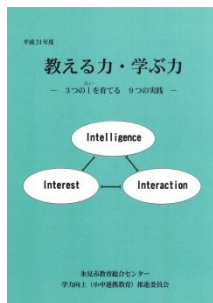
改訂では、各委員の今までの実践を基に、少しでも「子どもが学びやすい」「教師が使いやすい」工夫を心がけました。基本的なデータの更新をはじめ、教材の構成の変更や新しい工夫等は、多くのことを知ってもらいたい、考えてもらいたいとの思いからです。今後、未来を生きるよき市民を育てる教材として、各学校で活用していただきたいと思えます。

学力向上推進委員会

教える力・学ぶ力 — 3つのIを育てる 9つの実践 —

西部中学校 校長 米田 典子

本委員会では、氷見市の児童生徒の学力向上を目指して、各推進委員が自校の現状と課題を明らかにし、実態を見極めた授業の構想に取り組みました。「氷見市教育総合センターだより」9月の特集号、10月の特別号で、研究の方針や方策、「ねらいを明確にした授業、実感を伴った理解を大切にした授業、課題解決を中心に据えた授業、言語活動の充実、自己肯定感・学習意欲を向上させる工夫」等、取組の経過や小中連携の互見授業の様子をお知らせしました。また、小・中学校が連携した学習指導、生徒指導も含めた意見交換・協議を重ね、それぞれの方策の効果を検証し、授業改善に努めてきました。日々の授業を大切にした実践の積み重ねから、少しずつ児童生徒の学習意欲が高まり、学ぶ力が付いてきた手応えを感じています。研究の成果をまとめた学力向上実践事例集として『「教える力・学ぶ力」— 3つのIを育てる 9つの実践—』を発行することができました。市内の小・中学校の先生方の共有のものとしてぜひ活用していただき、目の前の児童生徒一人一人の可能性を伸ばしていただきたいと思います。



理科教育研究委員会

「体験してはじめて身に付くんだな」

灘浦小学校 校長 辻本 正樹

「あっ、放射線が見える！」これは、10月30日、比美乃江小学校で戸田一郎先生を招いて行った「霧箱」実験の際の受講者の言葉です。小学校教諭はもとより、実際にやったことの少ない中学校の理科教諭からも驚きの声が上がりました。

戸田先生の講演・実習の前に公開された宮林次美教諭の授業は、放射線測定器を使って身の回りの線量を測定し、放射線から身を守る方法を考えるという展開でした。また、11月22日に北部中学校で行われた新田稔教諭の授業は、霧箱で放射線を観察した後、遮蔽物との距離や材質を変えた実験を行い、放射線を弱める方法を探るというものでした。両校の児童・生徒は、自らの体験や実験結果をもとに意欲的に追究していました。

この小・中学校の提案授業によって、放射線の指導法が見えてきたように思います。「体験してはじめて身に付くんだな」（相田みつを）の言葉にもあるように、私たち教師には、放射線というだけでただ怖がるのではなく、実際にやって正しく理解して放射線から命を守る方法を身に付けた子どもの育成が、今求められているのではないのでしょうか。各学校で授業実践されることを切に願っています。

～新規採用教員の一年を振り返って～ No. 1

| | |
|---|--|
|  <p style="text-align: center;">学びと感謝の一年間</p> <p style="text-align: center;">比美乃江小学校 蟹谷 智</p> <p>学び多き一年間だった。あっといいう間に一年が過ぎた今、いろいろな人たちに支えられたという感謝の思いでいっぱいだ。子どもたちからは、教師として生きる元気や感動をもらった。「今日の勉強よく分かったよ」という声を聞くと、自分も一緒に満足感を得ることができる。「来年も先生のクラスになったらいいなあ」と言われたときは、胸が熱くなった。たくさんの人から学んだことを大切にして、これからも子どもたちと共に成長していきたいと強く思う。</p> |  <p style="text-align: center;">一年を振り返って</p> <p style="text-align: center;">比美乃江小学校 戸谷 亜希子</p> <p>4月から1年生の子どもたちと共に、私自身も教員1年生としてスタートを切った。初めての小学校生活や初めての学習に戸惑いながらも、友達と助け合ったり励まし合ったりしている子どもたちの姿を見ると、心身ともにたくましく成長してきたなあ実感する。楽しそうに話しかけてくる子どもたちの笑顔は、私に「これからも頑張っていこう」というパワーを与えてくれる。この笑顔がずっと続くよう、支援していきたいと思う。</p> |
|  <p style="text-align: center;">子どもの瞳が輝く授業を目指して</p> <p style="text-align: center;">宮田小学校 真田 美穂</p> <p>一昨年まで、他県で教員をしていた。結婚、出産を機に夫の故郷である富山県に移り住むことになった。方言も気候もこれまでとはまるで違う環境の中で始まった新採1年目。子どものつぶやきを拾いながら、立ち止まるべきときにじっくりと立ち止まって考えさせるタイミングや切り返しの発問等、まだまだ課題は山積みである。しかし、授業の前後で子どもの中の何が変わったか、何が新たに分かったか、何ができるようになったかを考えながら教材研究をすることが、今はとても楽しい。これからも子どもの力を信じて、子どもの瞳が輝く授業を目指し、共に成長していきたい。</p> |  <p style="text-align: center;">子どもたちと共に</p> <p style="text-align: center;">窪小学校 金森 佑美</p> <p>4月、これから始まる日々に希望と不安を抱いて、子どもたちと出会った。大きな声で挨拶ができるようになったり、友達に優しい言葉をかけることができるようになったりするなど、毎日成長していく子どもたちの姿を間近で見ることができ、本当に教師になってよかったと思っている。一人一人を大切に思い、支援していくことの大切さを学んだ。これからも、子どもたちとじっくりと向き合い、共に学び続けられる教師でありたいと思う。</p> |
|  <p style="text-align: center;">笑顔を大切に</p> <p style="text-align: center;">窪小学校 米田 哲郎</p> <p>小さい頃から学校が大好きだった私は、子どもたちにも私と同じくらい学校が好きになってほしいという強い思いがある。何も分からない私が、ただその思いを胸に子どもたちの指導ができるのは、親身になって指導してくださる温かい先生方に支えられているからである。今では、心から楽しく学ぶ子どもたちの姿を見ることが、何より私の活力となっており、さらに教師としての幸せを感じる瞬間でもある。今後も私に輝く笑顔を向けてくれる子どもたちにとって、一つでも多くの生き生きとした学びを支援できる教師でありたい。</p> |  <p style="text-align: center;">子どもに寄り添うということ</p> <p style="text-align: center;">久目小学校 東海 紋加</p> <p>保健室には、人間関係のトラブルや身体の悩みなどの相談に来る子どもが少なくない。相談後の私は、子どもが安心できるような対応であったか、いつも不安だった。しかし、ある日来室した子どもが、「聴いてくれるだけですっきりする。ありがとう。」と笑顔で教室へ戻って行った。そんな姿を見て、聴こうとする姿勢や「応援しているよ。」という気持ちが伝わったのかなと嬉しく感じた。真剣に子どもと向き合い、聴き、共感することの大切さを子どもから学ぶことができた。</p> |

～新規採用教員の一年を振り返って～ No. 2



信頼される教師を目指して

南部中学校
吉國 京子

4月から1年の学級担任や剣道部顧問等の仕事を通して、多くの生徒との関わりの中から、教員になった喜び、使命感を感じている。

特に、日々の授業において、生徒が熱心に私の話を聞き、一生懸命取り組んでいるので、授業にとてもやりがいを感じる。しかし、それと同時に大きな責任も感じている。今後もさらに、生徒の一生懸命な気持ちに応えられるような授業づくりを目指し、誰からも信頼される教員になれるよう、精一杯頑張りたい。



授業を通して気づいたこと

北部中学校
山崎 拓郎

この一年間、授業を行う難しさと、生徒にできるようになった喜びを味わわせる楽しさを体験させていただいた。

4月当初、教科書に従った授業しかできなかったが、新文法の導入に絵やゲームを用いたことから、次第に生徒の英語に対する意欲が高まってきた。生徒が楽しく学ぶためには、生徒の目線にたち、導入で興味を引き出すことが重要であると感じた。

2年目には、より分かる授業を展開できるように、日々の教材研究を充実させるとともに視聴覚教材をより活用していきたい。



教師としての責任

西條中学校
青木 めぐみ

4月から3年生の副担任として西條中学校に勤務し、10か月が経過した。初めてのことで戸惑いの連続だが、そのたびに周囲の先生方に助けていただき、学ぶことが多くあった。

保健体育の授業や部活動で、私の一言で生徒の動きが変わる。良くなることも悪くなることもある。生徒が必死に私の言うことを体で表現しようとする態度に、教師としての責任を感じる。どの単元も自信をもって指導できるよう、学び続ける姿勢を大切にしていきたいと思う。

平成24年度 教育論文・教育実践記録の審査結果

さる2月13日に平成24年度教育論文・教育実践記録の表彰式が開催されました。

今年度は、小学校から11編、中学校から3編、合わせて14編の応募がありました。その中から、下記のとおり1席、2席、3席、学校賞が各1編ずつ選ばれました。論文のテーマとして、算数・数学科や社会科学等の教科・領域に関するものだけでなく、今日的課題の学力向上や小中連携に取り組まれたものもみられました。詳細は、後日配布されます論文集をご覧ください。来年度も多くの応募をお願いします。

| 賞 | 学校名 | 氏名 | 研究主題（副題除く） |
|-----|--------|--------|--|
| 1席 | 湖南小学校 | 西 裕之 | 実感を伴った理解を図り、科学的な見方・考え方を伸ばす理科指導の在り方 |
| 2席 | 朝日丘小学校 | 小栗 千佳 | 社会的事象に進んで関わり、仲間と共に社会を創り上げていく子どもの育成を目指して |
| 3席 | 上庄小学校 | 大菱池仁子 | 他者と関わりながら、探究的に学び、自分の生き方を考えていこうとする子どもの育成を目指して |
| 学校賞 | 北部中学校 | 研究推進部会 | 自ら学び、高め合う集団の育成 |